

息子と娘、子ども二人とも小学生とまだ小さかったので、大勢の人が外に出た後で武道館(熊本市水前寺)を後にした。

二、三百人を超える人たちが一斉に、そうは広くない玄関口へと集まるのである。それらと一緒に出るのは危険に思えた。

ヤワラちゃんこと田村亮子選手のおぼさんだというSさんと私たちが知り合いで、そのSさんからこの日、田村選手ら日本を代表する女子柔道の選手たちが、武道館で合宿をすると教えてもらい、見物に来て、その帰りであった。

できれば、田村選手とうちの子どもたちと写真を撮りたかったが、選手たちには、練習の合間も取材の人が付きつきりで、また人も多く、とても写真をお願いできる状態ではなかった。「今日はあきらめよう」と、子どもたちには言っておかせたところだった。

外に出てしばらくすると、出口の所に田村選手が現れ、スタッフらしき人とニコニコしながら

ヤワラちゃん見聞記 (IV)

土地家屋調査士

田口 一法さん



っておられました」。若い女性を前にして、もう少し気の利いたことが言えないものかと思うが、子連れの中年男が話せることといったら、せいせいこんなものだ。

田村選手は、何ととってもいいか分からないような顔で私を見、「そうですか」とだけ返事を返して向こうへ行行った。写真をお願いできるチャンスだったかなあとも思ったが、合宿練習の後で彼女も疲れているだろうし、それに先ほどの取材のあり方を見ていると、ちょっと気が引けた。

家に帰り家内が仕事から帰ってくる、多分娘の方だったと思うが、「父ちゃんすこいよ。父ちゃん、今日ヤワラちゃんとお話したんだよ」と二気にまくし立てた。一人が言う、もう片方も、「そう、そう、父ちゃんすこい」と、二人ともすこい、すこいと行って、今日のことを家内に報告していた。

大の男が仕事もせずに行つて、一緒に並んだところを写真にも撮ってやれず、「武道館までおれは何をしに行ったのだろ」と思いながら、冷蔵庫からビールを取り出し栓を抜いた。

「Sさんの知り合いの者です。Sさんは今日、来られないと言

らこちらへやってきた。私と子ども二人は脇によけ、彼女たちを先に通した。その時ちょっと会釈したような形になって、私の方から田村選手に声をかけた。

「Sさんの知り合いの者です。Sさんは今日、来られないと言